

鍼灸学科教育課程表

(別表2)

教育内容	指定 単位数	授業 方法	授業科目	履修 区分	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年		
							単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活	14	通信	人文科学Ⅰ	必修	2	90			2	90			
		〃	人文科学Ⅱ	〃	2	90			2	90			
		〃	社会科学	〃	2	90			2	90			
		講義	自然科学Ⅰ	〃	2	40	2	40					
		〃	自然科学Ⅱ	〃	2	40			2	40			
		〃	自然科学Ⅲ	〃	2	40			2	40			
		〃	自然科学Ⅳ	〃	2	40					2	40	
小計	14				14	430	2	40	10	350	2	40	
専門基礎分野 人体の構造と機能	12	講義	解剖学Ⅰ	必修	4	80	4	80					
		〃	解剖学Ⅱ	〃	1	20	1	20					
		〃	解剖学Ⅲ	〃	4	80	4	80					
		〃	生理学Ⅰ	〃	4	80	4	80					
		〃	生理学Ⅱ	〃	2	40	2	40					
	12	講義	病理学概論	必修	2	40			2	40			
		〃	衛生学・公衆衛生学	〃	2	40					2	40	
		〃	臨床医学総論	〃	2	40			2	40			
		〃	臨床医学各論Ⅰ	〃	4	80			4	80			
		〃	臨床医学各論Ⅱ	〃	2	40					2	40	
3	講義	関係法規・健康保険学	必修	2	40					2	40		
	〃	医療概論	〃	1	20	1	20						
小計	27				34	680	16	320	12	240	6	120	
専門分野 基礎はりきゅう学	9	講義	東洋医学概論Ⅰ	必修	3	60	3	60					
		〃	経絡経穴概論	〃	5	100	5	100					
		〃	鍼灸理論	〃	2	40			2	40			
	13	講義	東洋医学概論Ⅱ	必修	3	60			3	60			
		〃	病態生理学	〃	2	40					2	40	
		〃	鍼灸診察概論	〃	2	40			2	40			
		〃	鍼灸臨床論Ⅰ	〃	2	40			2	40			
		〃	鍼灸臨床論Ⅱ	〃	3	60					3	60	
	2	講義	東洋医学臨床論	〃	3	60					3	60	
		講義	社会鍼灸学	必修	2	40					2	40	
	実習	15	実習	鍼灸入門実習	必修	2	80	2	80				
			〃	鍼基礎実習	〃	2	80	2	80				
			〃	灸基礎実習	〃	1	40	1	40				
			〃	体表観察実習	〃	1	40			1	40		
			〃	鍼灸診察実習	〃	2	80			2	80		
			〃	現代鍼灸実習	〃	1	40			1	40		
			〃	東洋医学実習	〃	2	80			2	80		
〃			鍼灸応用実習Ⅰ	〃	3	120					3	120	
〃	鍼灸応用実習Ⅱ	〃	2	80					2	80			
臨床実習	4	実習	臨床実習Ⅰ	必修	1	45	1	45					
		〃	臨床実習Ⅱ	〃	1	45	1	45					
		〃	臨床実習Ⅲ	〃	1	45			1	45			
		〃	臨床実習Ⅳ	〃	1	45					1	45	
総合領域	10	演習	鍼灸総合演習Ⅰ	必修	5	100					5	100	
		〃	鍼灸総合演習Ⅱ	〃	5	100					5	100	
小計	53				57	1560	15	450	16	465	26	645	
合計	94				105	2670	33	810	38	1055	34	805	

鍼灸学科 教員実務経験科目一覧

教育内容	授業方法	授業科目	履修区分	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年	
						単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数
基礎分野		科学的思考の基盤 人間と生活									
専門基礎分野		人体の構造と機能									
		疾病の成り立ち その予防及び回復の促進									
		保健医療福祉とはり 及びきゅうの理念									
専門分野		基礎はりきゅう学									
	臨床はりきゅう学	講義	東洋医学概論Ⅱ	必修	3	60		3	60		
		〃	鍼灸臨床論Ⅱ	〃	3	60				3	60
		〃	東洋医学臨床論	〃	3	60				3	60
	社会はりきゅう学										
	実習	実習	東洋医学実習	必修	2	80		2	80		
	臨床実習										
総合領域											
全課程 合計				105	2670	33	810	38	1055	34	805
教員実務経験該当 合計				11	260	0	0	5	140	6	120

科目名	東洋医学概論Ⅱ					担当者	山形 泰斗		
単位数	3	時間数	60	年次	2	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
東洋医学的に病態を理解したうえで、四診(望診・聞診・問診・切診)を用いた具体的な診察内容および臨床意義について学ぶ。また、これまでの章で学んだ内容を統合することで東洋医学的な診断・治療の手段である弁証論治について理解することを目標とする。									
【実務経験】									
大学付属鍼灸院、一般鍼灸治療院、本校付属鍼灸院での実務経験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
中間試験(20%)と定期試験(80%)の結果により評価する。									
【注意事項】									
1年次に学習した東洋医学概論Ⅰの復習を交えながら講義を進めるように留意する。									
【講義計画】									
1	本章までの復習①					27	まとめ①		
2	本章までの復習②					28	まとめ②		
3	本章までの復習③					29	まとめ③		
4	本章までの復習④						定期試験		
5	本章までの復習⑤					30	まとめ④		
6	四診①								
7	四診②								
8	四診③								
9	四診④								
10	四診⑤								
11	四診⑥								
12	四診⑦								
13	四診⑧								
14	四診⑨								
15	四診⑩								
16	四診⑪								
17	四診⑫								
18	弁証論治①								
19	弁証論治②								
20	弁証論治③								
21	弁証論治④								
22	弁証論治⑤								
23	弁証論治⑥								
24	弁証論治⑦								
25	弁証論治⑧								
26	弁証論治⑨								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「新版 東洋医学概論」 医道の日本社					参考書			

科目名	鍼灸臨床論Ⅱ				担当者	上田 直樹			
単位数	3	時間数	60	年次	3	履修期	前期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
「東洋医学臨床論」に記載されている疾患を中心に学習し、臨床において鍼灸不応症名症例を鑑別することができ、各治効理論に基づいて各疾患を治療できるように学習する。									
【実務経験】									
大学附属鍼灸院、本校附属鍼灸院での実務経験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
定期試験の結果(100%)により評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	導入・復習				27	老年特有の症候①			
2	肺系統の症候①				28	老年特有の症候②			
3	肺系統の症候②				29	総復習			
4	肺系統の症候③					定期試験			
5	肺系統の症候④				30	まとめ			
6	腎系統の症候①								
7	腎系統の症候②								
8	腎系統の症候③								
9	腎系統の症候④								
10	全身の症候①								
11	全身の症候②								
12	全身の症候③								
13	全身の症候④								
14	全身の症候⑤								
15	その他の症候①								
16	その他の症候②								
17	その他の症候③								
18	その他の症候④								
19	女性特有の症候①								
20	女性特有の症候②								
21	女性特有の症候③								
22	女性特有の症候④								
23	女性特有の症候⑤								
24	小児特有の症候①								
25	小児特有の症候②								
26	小児特有の症候③								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「新版 東洋医学臨床論(はりきゅう編)」 南江堂				参考書	矢野 忠 編集主幹 「図解 鍼灸療法技術ガイド 鍼灸臨床の場で 必ず役立つ実践のすべて II」 文光堂			

科目名	東洋医学臨床論					担当者	山口 大輔 / 上田 直樹		
単位数	3	時間数	60	年次	3	履修期	後期	授業方法	講義
【講義内容・目的】									
東洋医学概論・経絡経穴概論を基礎知識とし、様々な症候に対して考察・学習し応用力をつける。									
【実務経験】									
大学附属鍼灸院、本校・大学校附属鍼灸院での実務経験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
定期試験(100%)により評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	症状・病態に対する弁証論治と治療法(1)					26	症状・病態に対する弁証論治と治療法(26)		
2	症状・病態に対する弁証論治と治療法(2)					27	症状・病態に対する弁証論治と治療法(27)		
3	症状・病態に対する弁証論治と治療法(3)					28	症状・病態に対する弁証論治と治療法(28)		
4	症状・病態に対する弁証論治と治療法(4)					29	症状・病態に対する弁証論治と治療法(29)		
5	症状・病態に対する弁証論治と治療法(5)					30	症状・病態に対する弁証論治と治療法(30)		
6	症状・病態に対する弁証論治と治療法(6)								
7	症状・病態に対する弁証論治と治療法(7)								
8	症状・病態に対する弁証論治と治療法(8)								
9	症状・病態に対する弁証論治と治療法(9)								
10	症状・病態に対する弁証論治と治療法(10)								
11	症状・病態に対する弁証論治と治療法(11)								
12	症状・病態に対する弁証論治と治療法(12)								
13	症状・病態に対する弁証論治と治療法(13)								
14	症状・病態に対する弁証論治と治療法(14)								
15	症状・病態に対する弁証論治と治療法(15)								
16	症状・病態に対する弁証論治と治療法(16)								
17	症状・病態に対する弁証論治と治療法(17)								
18	症状・病態に対する弁証論治と治療法(18)								
19	症状・病態に対する弁証論治と治療法(19)								
20	症状・病態に対する弁証論治と治療法(20)								
21	症状・病態に対する弁証論治と治療法(21)								
22	症状・病態に対する弁証論治と治療法(22)								
23	症状・病態に対する弁証論治と治療法(23)								
24	症状・病態に対する弁証論治と治療法(24)								
25	症状・病態に対する弁証論治と治療法(25)								
	定期試験								
教科書	公益社団法人東洋療法学校協会 編 「新版 東洋医学概論」 医道の日本社					参考書			

科目名	東洋医学実習					担当者	江郷 順子		
単位数	2	時間数	80	年次	2	履修期	通期	授業方法	実習
【講義内容・目的】									
四診すべてが行えるように技術を習得し、証がたてられるようにすることを目標とし更にそこから治法を理解・選択し、自ら配穴を行えることを目標とする。									
【実務経験】									
一般治療院および本校付属鍼灸院での実務経験を踏まえながら講義する。									
【成績評価方法】									
定期試験(80%)と平常点(20%)で評価する。									
【注意事項】									
【講義計画】									
1	望診①				27	切診⑩			
2	望診②				28	切診⑪			
3	望診③				29	治法①			
4	望診④				30	治法②			
5	望診⑤				31	治法③			
6	聞診				32	治法④			
7	問診				33	治法⑤			
8	切診①				34	治法⑥			
9	切診②				35	治法⑦			
10	切診③				36	治法⑧			
11	切診④				37	治法⑨			
12	切診⑤				38	治法⑩			
13	切診⑥					定期試験			
14	切診⑦				39	復習			
15	切診⑧				40	まとめ			
16	切診⑨								
17	切診⑩								
18	切診⑪								
19	復習								
20	切診⑫								
21	切診⑬								
22	切診⑭								
23	切診⑮								
24	切診⑯								
25	切診⑰								
26	切診⑱								
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 「新版 東洋医学概論」医道の日本社					参考書			